

もくぞう あ み だ にょらい ゆうぞう
「木造阿弥陀如来立像」

町指定有形文化財（彫刻）

所在地：大字上五明 206 所有者：西教寺 指定：昭和 55 年 10 月 15 日

この像は檜材寄木造り内割で、螺髪は彫出しで、肉髻朱・白毫は水晶、玉眼を嵌入し、肉身を漆箔としています。左手を下げ、右肘をまげて、両手共に第一指と第二指を捻じた上品下生の印相を結び、両足をそろえて足柄で台座の上に立ちます。螺髪はやや大粒であるが低目で、髪際はわずかに波形を呈し、肩は撫肩でやや弱い、肘部に厚みがあり、衣文の構成に写実味があって、鎌倉時代にさかのぼる制作と考えられます。

寺は鎌倉の光明寺開山、記主禅師然阿良忠の開いた寺とも伝えられています。

法量 像高 79.5 cm

頂～顎 14.5 cm

髪際～顎 9.6 cm

面幅 8.0 cm

面奥 11.5 cm

肩張り 20.4 cm

胸厚 13.3 cm

肘張り 25.0 cm

裾張り 18.0 cm

